

# JIS

## AM/FM 放送受信機試験方法一 第 3 部：FM 放送受信機

JIS C 6102-3 : 2019

(JEITA/JSA)

平成 31 年 3 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準第二部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	大崎 博之	東京大学
(委員)	青柳 恵美子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	伊藤 智	一般社団法人情報処理学会情報規格調査会 (国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)
	岩渕 幸吾	一般社団法人電子情報技術産業協会
	内田 富雄	一般財団法人日本規格協会
	江崎 正	IEC/SMB 日本代表委員 (ソニー株式会社)
	酒井 祐之	一般社団法人電気学会
	住谷 淳吉	一般財団法人電気安全環境研究所
	高村 里子	全国地域婦人団体連絡協議会
	田中 一彦	一般社団法人日本電機工業会
	橋爪 弘	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
	平田 真幸	IEC/CAB 日本代表委員 (富士ゼロックス株式会社)
	水本 哲弥	東京工業大学
	山根 香織	主婦連合会

---

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 10.12.20 改正：平成 31.3.20

官 報 公 示：平成 31.3.20

原 案 作 成 者：一般社団法人電子情報技術産業協会

(〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-1-3 大手センタービル TEL 03-5218-1050)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 03-4231-8530)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準第二部会 (部会長 大崎 博之)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際電気標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 目 次

	ページ
序文	1
1 全般	1
1.1 適用範囲	1
1.2 引用規格	1
1.3 用語及び定義	2
1.4 標準測定条件	4
1.5 測定上の全般的な留意事項	8
2 感度及び内部雑音	10
2.1 用語の説明	10
2.2 信号対雑音比（ウエイティングあり及びなし）並びに SINAD	10
2.3 雑音制限感度	11
2.4 利得制限感度	12
2.5 実用感度	12
2.6 偏移感度	12
2.7 入出力特性	13
3 不要信号の除去	14
3.1 キャプチャレシオ	14
3.2 選択度及び近傍チャンネルの除去（2 信号）	14
3.3 中間周波及びイメージ周波の除去並びにスプリアスレスポンス	17
3.4 振幅変調の抑圧	19
3.5 無線周波信号の相互変調積の除去	20
3.6 同調及び自動周波数制御（AFC）特性	23
4 内部信号源による妨害	24
4.1 1 信号ホイッスル	24
4.2 変調ハム（電源周波数の妨害）	25
4.3 不要な自己発振	25
4.4 音響的帰還	25
5 総合可聴周波数特性	26
5.1 忠実度	26
5.2 高調波ひずみ	26
5.3 相互変調ひずみ	29
5.4 チャンネル間特性	30
5.5 音量調節器の特性	31
5.6 残留出力	31
5.7 漏話減衰量	32

5.8 総合可聴周波数レスポンス .....	33
6 入力信号の付加の変調の影響 .....	33
6.1 16 kHz から 22 kHz まで及び 54 kHz から 99 kHz までの範囲の信号の除去 .....	33
6.2 62 kHz から 73 kHz までの範囲の信号の除去 (SCA 除去) .....	34
6.3 RDS 信号によって生じる妨害の測定 .....	34
6.4 副搬送波, パイロットトーン信号の基本波, 高調波及び側帯波の抑圧 .....	34
6.5 隣接チャンネル信号によるパイロットトーン方式ステレオ受信機への妨害の抑圧 .....	35
7 ロッド, 伸縮及び内蔵アンテナ付き受信機の感度並びにアンテナ利得及び指向特性 .....	35
7.1 一般 .....	35
7.2 ロッド又は伸縮アンテナ付き受信機の感度及びアンテナ利得の CISPR 16-1-3:2004 及び Amendment 1:2016 に記載されている吸収クランプを使用する測定方法 .....	35
8 JIS C 6102-1 に測定方法が規定されている特性 .....	36
8.1 一般 .....	36
8.2 特性及び相互参照のリスト .....	36
附属書 A (参考) 1 kHz 帯域除去フィルタの例 .....	57
附属書 B (参考) 補助的サービスの標準周波数偏移 .....	58
附属書 C (参考) ステレオチャンネル間の漏話の測定 .....	59
附属書 D (参考) ロッド及び伸縮アンテナの特性—検討中の測定方法 .....	60
附属書 JA (参考) JIS と対応国際規格との対比表 .....	62
解 説 .....	63

## まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。これによって、**JIS C 6102-3:1998** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

**JIS C 6102** の規格群には、次に示す部編成がある。

**JIS C 6102-1** 第 1 部：一般的事項及び可聴周波測定を含む試験

**JIS C 6102-2** 第 2 部：AM 放送受信機

**JIS C 6102-3** 第 3 部：FM 放送受信機

白 紙

# AM/FM 放送受信機試験方法一

## 第 3 部：FM 放送受信機

Methods of measurement on receivers for AM and FM sound broadcasting emissions Part 3: Receivers for FM sound broadcasting emissions

### 序文

この規格は、1997 年に第 2 版として発行された **IEC 60315-4** を基とし、日本国内における試験環境に整合させるため、技術的内容を変更して作成した日本工業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。変更の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JA** に示す。

### 1 全般

#### 1.1 適用範囲

この規格は、モノフォニック（以下、モノという。）又はステレオフォニック（以下、ステレオという。）の FM 音声放送を受信する無線受信機及びチューナの試験方法について規定する。この規格は、主として受信機のアンテナ端子に加えられた無線周波信号を使用する試験方法を規定している。

この規格は、**JIS C 6102-1** と併せて使用されることを前提としている。

試験方法及び規定の試験条件は、いろいろな試験者及びその他の受信機で得られた結果が比較できるように選定されている。所要性能はこの規格では規定しない。

放射及び妨害排除能力の試験及び所要値については、**CISPR 32** 及び **CISPR 20** に規定されているため、この規格には含まれていない。

**注記** この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

**IEC 60315-4:1997**, Methods of measurement on radio receivers for various classes of emission—Part 4: Receivers for frequency-modulated sound broadcasting emissions (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、**ISO/IEC Guide 21-1** に基づき、“修正している”ことを示す。

#### 1.2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、西暦年を付記してあるものは、記載の年の版を適用し、その後の改正版（追補を含む。）は適用しない。西暦年の付記がない引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

**JIS C 6102-1** AM/FM 放送受信機試験方法一第 1 部：一般的事項及び可聴周波測定を含む試験

**注記** 対応国際規格：**IEC 60315-1**, Methods of measurement on radio receivers for various classes of emission Part 1: General considerations and methods of measurement, including audio-frequency measurements (IDT)